

自 己 評 価 書

(平成24年度)

平成25年3月

鳴門教育大学附属幼稚園

目 次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	2
	1. 教育課程・指導	2
	2. 保健管理	7
	3. 安全管理	9
	4. 組織運営	10
	5. 研修	13
	6. 保護者・地域住民との連携	16
	7. 教育環境整備	18
	8. 教育実習	21
	9. センターの役割	25
III	自己評価別添根拠資料一覧	26

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成
3歳児1学級, 4歳児2学級, 5歳児2学級
保育課程 2年保育, 3年保育

- (4) 幼児数及び教員数(平成24年5月1日)
幼児数137人 教員数9人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。
- ③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。

④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。

⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。

⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

(4) 平成24年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の4点から教育目標の具現化を図る。

①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。

②「遊誘財」研究を推進するとともに、幼小接続の教育課程開発のさらなる取り組みを進める。

③専門性や実践力を養う実地教育の充実に取り組む

④地域の幼児教育のセンター的役割を果たす。

(5) 評価項目

①教育課程・指導

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
- ・幼小の円滑な接続に関する取り組み状況

②保健管理

- ・保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

③安全管理

- ・安全管理計画(危機管理マニュアル)の見直し・活用の状況

④組織運営

- ・園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

⑤研修

- ・園内外における研修の実施及び参加状況

⑥保護者・地域住民との連携

- ・保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果

⑦教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

⑧教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

⑨センター的役割

- ・幼児教育関係者への研修支援、教員派遣等の状況

Ⅱ 評価項目ごとの自己評価

評価項目1 教育課程・指導

(1) 観点ごとの分析

観点1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

【観点到に係る状況】

幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、本園の教育課程・指導計画である「生活プラン」を作成している。今年度は科学的思考を促す幼小接続教育課程作成に向けて、数量、図形、言葉や文字、協同性の観点から現行の教育課程・指導計画を見直した。その結果5歳児Ⅱ期からを小学校への接続期に設定して、数量、図形、言葉や文字、協同性に関する感覚やかかわる力が育っている姿を明示した。

保育の質をさらに高める手立てとして、保育実践の記録と事例収集、並びに本園独自の「保育の計画と記録」及び教員個々が作成・利用している保育記録やパソコンによるデータ記録を併用し、保育実践にかかる記録や週案等を作成する手立てとし、指導計画の修正と作成をめざした。

【分析結果と根拠理由】

①本園の教育課程・指導計画をおさめた「生活プラン」は、現在、研究開発学校2年次の成果の科学的思考を促す視点から鋭意改善中である。また、その中の5歳児9月から1年生概ね9月までを「接続期」として表した幼小接続教育課程についても文部科学省教科調査官や指導・助言担当者から評価を得ている。とくに、接続期の教育課程の評価として、発達や生活の姿を抽出して評価要素を明示する取組は指導の成果をはかる評価として支持されている。

②平成24年度附属幼稚園オープンスクール並びに幼児教育研究会におけるアンケート集計結果
本園の保育実践や教師の指導力について、幼児教育研究会（来園者407名・アンケート回答者82名）や本園オープンスクールの参観者（来園者160名・アンケート回答者100名）に尋ねたアンケート集計結果によると、本園の保育について「とてもよい」との回答が、教育関係者92.7%、保護者99%から寄せられ、教師の姿勢や指導力に関しては、

○教育関係者：「子どもを尊重した働きかけ、ことばづかい、身のこなしに感心した」「ゆったりとした保育者の支援、声のかけ方、目配り、配慮など自園との違いを考えさせられた」「保育者から提供するのではなく、子どもの意見に耳を傾けている姿がよかった」「急がせるとか、禁止するなどのことばが皆無だった」「あたたかい笑顔と機敏な動きの保育者の姿は見習うべきである」「全教師が関わっていることがすごい」「保育者が押しつけるのではなく、子どもの遊びが実現できるように教師が真剣に向き合い、共に考える姿勢を見習いたい」「先生が大きな声を出すことがなかった」「教師の笑顔、豊かな表情、おだやかな様子、言葉の選び方などが大変参考になった」「何かをさせようとする言葉ではなく、子どもを誘い込む言葉が印象的だった」

○保護者：「子どもと一緒にあって、何にでも取り組んでいる姿がすばらしい」「先生が、子どもたちの遊びにしっかりと向き合ってくれており、細かな目配りと心配りをしてくれている」「短い時間の中で様々な面で子どもたちと触れ合い、個性を伸ばそうとしていただいていることがよくわかった」「子どもの好奇心ややる気をうまく刺激し、成長を促してくれているところがすばらしい」「子どもたちに対して、真摯で誠実な先生の姿勢にとっても好感がもてる」「様々なグループで遊んでいるにもかかわらず、先生の気配りが行き届いている」「先生方がすべて子どもにかかわってくれており、的確なアドバイスやサポートをしてくれている。子どもたちは安心してのびのび生活をしている」「先生が目が子どもたちに行き届き、きめ細かい保育がされている」

と感じた」

また、本園の環境整備について「とてもよい」との回答は、教育関係者 91.5%、保護者 96%から寄せられた。

資料1-① 平成24年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果（一部抜粋）

実施日	平成24年度 附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果	
対象	平成24年11月3日（木）	
内容	オープンスクール参加者	160名（アンケート回答者100名）
	1 保育について	3段階評価及び自由記述
	2 環境整備について	3段階評価及び自由記述
	3 その他感想・意見	自由記述

アンケート集計結果		
○保育について		
・とてもよい	99名（	99%）
・あまりよくない	0名（	0%）
・どちらでもない	0名（	0%）
・記入なし	1名（	1%）
○環境整備について		
・よく整っている	96名（	96%）
・もっと整えて欲しい	2名（	2%）
・どちらでもない	1名（	1%）
・記入なし	1名（	1%）

保育について自由記述の概要

★子どもが生き生き・のびのび・楽しく

- 自由に遊びつつ、自主的に何かしようと考えて行動しているように見えた。自由行動と集団での行動にメリハリがあってよかった。
- みんな自由に楽しくしている。
- のびのびと好きな活動を思いのままに、遊んでいる。
- 楽しそうに笑顔いっぱいの子が見られる。
- 全員が生き生きと目を輝かせて活動している。いい表情をしている。

★自主性・主体性・遊びを大切に

- 一輪車に乗っている様子を見た。先生から、ここまで到達するには失敗してもくじけず練習し続けたこと、見えないところで努力を重ねて今日まで頑張った子どもたちの事を教えていただき、先生方がいつも見守ってくださっている事がよくわかった。
- 自由に自分で考えながら好きな所で遊んだり、時間を指定して全員で遊ぶ時間もあつたりと、皆楽しそうにいきいきとしていた。
- 自主性を尊重しながらも、力を合わせて取り組む場面も見られ良かった。
- 子どもたちが自主的に自分がやりたいことを見つけ、取り組む様子が印象的だった。

★集団活動・協調性

- 子どもどうし、ゆずりあいをしながらかそれぞれに共生共同していくルールができていると感心した。
- 子どもたちが協力して一つのことをやるなど、自宅ではできない活動があることがすばらしい。
- 遊びを通じて、協調性を学んでいる。
- 個人個人が友達と関わりを持って、自由に遊んだり教えあつたりしているのが印象的だった。
- 自由ではあるけれども、様々なルールが暗黙のうちに守られている。
- したい遊びを生き生き真剣にしながらその中で規則や友達との関係を学んでいる。

別添資料	1-①	平成24年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料	1-②	平成24年度附属幼稚園幼児教育研究会アンケート集計結果
別添資料	1-③	平成24年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料	5-①	研究紀要第46集

観点1-2 幼小の円滑な接続に関する取り組み状況

平成23年度より3年間、文部科学省より研究開発学校の指定を受け「幼小接続の教育課程開発」に取り組んでいる。

【観点に係る状況】

①接続期の始期・終期の設定

幼児期から児童期への移行期の配慮点等の可視化を図り、学びの芽生えから自覚的な学習へのなめらかな移行を促していく必要から、5歳児Ⅱ期から概ね1年生9月までを接続期と設定した。

幼児たちの生活においては、9月から、隣接した附属小学校で体育大会の練習が始まる。その後、10月のはじめには、その運動場で自分たちが計画・運営・演技する運動会を体験する。また、さらにその後には、自宅近隣の公立小学校にて就学前健康診断を受け、小学校進学への期待が高まっていく。つまり、幼児たちを取り巻く生活・文化的な要因が強く働き、学年の構成員としての自覚と責任をもって活動を進めることを「やりがい」のあることと喜ぶようになる。また、教職員が方向付けた課題を自分のこととして受け止めたり、相談したり互いの考えに折り合いをつけたりしながら、クラスやグループみんなで達成感をもってやり遂げる活動を計画的に進める態度も育ってくる傾向がある。そこで、5歳児組の9月からを接続期の始まりとした。

一方、小学1年生の9月には、前述の体育大会参加の体験から学級意識が強まり、共通の目標を意識した協同的な活動が盛り上がってくる。それまで、様々な幼児教育施設から入学してきた児童たちの多くは教師との関係づくりが一番の関心事項であったが、この頃から友達のよさやもち味といったものへの関心が広まり、児童同士の関係性が形成されていく。学習活動も、自分なりに意識する個々のめあてから、仲間と共有し、しかも自分にとっての必然性を感じ取る学級集団のめあてとしての認識が急速に深まっていく傾向がある。学習の中では、仲間と共有する学習のねらいや学習成果の一般化が図られると共に、それに照らして、自分自身の事柄に個別に気付くような変化も顕著になってくる。些細な食い違いやトラブルでのけんかも減り、学習や生活への見通しがもてるようになり、互いにまねたり、伝え合ったり、教えあったりしながら学び合う力も増してくる。また、書く力もついてきて、自分自身を俯瞰して捉えたり、考えたりすることもできるようになる。このような発達の節目が感じられることから本校園では接続期の終わりを概ね1年生9月とした。

②接続期の教育課程及び評価要素を示す。

本園の教育課程編成の理念を具現化し、科学的思考力を培う環境へのアプローチや協同的活動を踏まえ、数量の感覚が育つ姿や科学的思考力の育つ姿との関係性が見えるような接続の教育課程・指導計画を作成する。

本園の教育課程は次の事柄が軸となって構造化されている。幼稚園の生活の中で、幼児たちがこれまで身につけてきたものを発現させ、それを集団教育における協同的学びによって、自分たちの生活をより豊かに創造していこうとする力を育成していく。このとき、伝統的に幼児たちと共に創りあげてきた遊誘財が重要な環境となって相互作用を促していくものである。

－教育課程の軸「育てたい力」－

- ①「わくわく ときどき」感動する心を育てる。
- ②人間の本来の知的喜びを、身体感覚を通して呼び覚ます。
- ③知恵のある生活（暮らし）を受け継ぐ者として育てる。
 - ・地域（日本）の衣食住のさまざまな共有体験を豊かにする。
 - ・自然と一体化しながら、日々の生活を豊かにする。
 - ・生活の中の様々な問題を解決していく中で科学的思考力を身につけていく。
- ④人間を理解し関係を調整していこうとする力を育てる。

前述の通り、接続期には「接続教育課程の評価要素」（数や量、幾何学図や形・大きさ・空間、文字、協同的感性、問題解決。現在作成中）をもとに、幼児・児童の学びや育ちの過程や現状を把握し、指導方法の改善につなげていく。

「接続期教育課程の評価要素表」（試案）

数や量	<p>①数えることと数の連続</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まとまりのある3つの群について、多少の区別ができる。（$A > C > B$） ○数詞を使って話す（人・個・本・枚など）。 ○ポインティング（指さし）と同時に数詞を使う。 ○数えることなしに6つまでの事物の数が知覚できる。（例；サイコロの目） ○正しく事物を指さしたり，1対1対応させながら30まで数える。（30人学級なので） ○ものや動きにみあわせて100までの連続数を唱える。（例；縄跳びや運動会のクッキー準備など） <p>②数え上げること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○求めに応じて、「○○を○個」，「○○を○個」，「○○を○個」と3種類のものをとる。 ○学級のそれぞれの人に同じ数だけ分ける。 ○リクエストに従い5つのものを取る。 ○何歳と聞かれてことばで正確に答える。 ○30人分のテーブルセッティングをする。（カレーライスやクッキーなど） ○30の物を数えた後，そこにいくつあったか答えることができる。
幾何	<p>①形と空間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身体の部位を指さし名前を言うことができる。（目鼻耳口頬眉まぶた額髪腕肘掌腿膝など） ○異なった形を区別して片付ける。（例；ハンガーボードに同じ形のピースをかけたり，分類のボックスを使用したり） ○ジグソーパズルで7～10個のピースを一枚の絵にする。 ○幼稚園の中でリクエストにより決まった場所に行くことができる。 ○体の部位を意識して人を描く。 ○興味をもって図や国旗，絵本の絵などを模写する。 ○折り紙を折ったり展開したりして器や立体をつくる。 ○積み木や空き箱を組み合わせて家などをつくる。 <p>②パターンと順序</p> <ul style="list-style-type: none"> ○並んだ絵の繰り返しに気付き，次にくるものを予想する。 ○拍やリズムに興味をもって，まねたり，呼応したり，替え歌をつくったりする。 ○生活のリズムができて，活動を見通す。 ○大きさに応じて一列に並べる。 ○自分自身でパターンをつくる。（例 ビーズや木の実のアクセサリー 描いたり物語を書いたり 動きの表現の中で） ○いくつかの特徴で事物を分けたり仲間作りをしたりする。
問題解決	<p>①数学的言語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対象を比べ，大きいー小さい・多いー少ない・遠いー近い・高いー低い・深

	<p>いー浅い・濃いー薄いなどの概念が区別できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上下・左右・斜めの位置が分かる。 ○出来事を話すときに状況やものの特徴を表すことばが言える。 ○置き場所の指示に従える。(上から何番目・左から何番目など) ○関係と比較して表現することばをつかう。(～と比べて、～の方が～など) ○真ん中や中心が分かる。 <p>②論理的理由付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ○季節や天候にあわせた服や装いをする。(帽子や手袋, 上着など) ○使った遊具や用具を片付けるとき正しい場所に置く。 ○学級の友達と平等に分けることができる。 ○活動に必要なものをそれぞれの置き場所から取る。 ○最初と最後の様子からつながりや因果関係を考えて話せる。 ○引き起こされたことと引き起こされそうなことの違いが分かり, 予想する。
	<p>文字への関心</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ○書いてあることに注意を向けたり関心を示す。 ○好きな絵本がいくつかあり, その内容について話すことができる。 ○しりとりや遊びやなぞなぞ遊びを楽しむ。 ○自分の名前が分かる, 平仮名で書ける。 ○書きたいと思ひ, 平仮名を見ながらまねて書く。 ○表示や文字に関心をもって, 見たりたずねたりする。 ○友達と一緒に絵本をつくったりカルタをつくったりすることを楽しむ。
	<p>協同的感性 (<i>sense of cooperation</i>)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①協同的言語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に歌ったり踊ったりして共鳴することを喜ぶ。 ○主述をはっきりさせて自分の意見を言う。 ○うなずいたり相づちを打ったりしながら相手の話を聞く。 ○比喩や例を用いて説明することができる。 ○友達と活動の目的や目標などについて話し合う。 ○相手の意見と自分の意見の違いや共通点について気付き, 話す。 <p>②人間を理解し関係を調整する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「人間を理解し関係を調整する力」の21項目参照。

【分析結果と根拠理由】

科学的思考を培う環境へのアプローチ・協同的な活動・言語活動において「育てたい力をより具体的に評価要素表に記し, 教育課程・指導計画の実施についての評価指標とした。このことで, 接続期の指導内容・方法に関するPDCAサイクルが円滑に機能するようになった。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

これまでの教育課程・指導計画を数や量, 幾何学図や形・大きさ・空間, 文字, 協同的感性, 問題解決の観点から幼児・児童の学びや育ちの過程や現状を把握し, 指導方法の改善につなげることができた。本研究を進めるにあたり, 本学の幼年発達支援コース・教員養成特別コース・自然系コース・言語系コースの先生方から多くのご示唆をいただき内容をより深めることができた。

【改善を要する点】

幼児・児童の学びや育ちの過程や現状を把握し, 指導方法の改善につなげていくための評価要素であるが, 内容が具体的な行動レベルになると「課題」や「目標値」と誤解されやすい。一方, おおまかすぎると発達を見とる視点があやふやになる。この問題については次年度の課題としている。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている」と判断する。

自己評価の基準

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取組が不十分である

※評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目 2 保健管理

(1) 観点ごとの分析

観点 2 保健計画の作成・実施の状況，園の環境衛生の管理状況

【観点到係る状況】

(1) 月別の指導計画の見直しの実施

今年度も月別の指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や、月ごとにかかりやすい疾病の予防などについて計画を立て、それに沿って保健管理や保健指導を実施した。また、今年度より、各保育室に冷房が設置された。そのため、これまでと比べると室内での活動において熱中症が発生する危険性は減少したと考えられる。しかし、今年度も夏季は酷暑が続いた。そのため、園内での夏の過ごし方については、木陰で時々休むように声をかけたり、水分を補給する、外で活動するときには帽子を着用するなど、格別の注意を払うよう努力した。また、インフルエンザ等の感染症の流行シーズンを前に、手洗いの指導を行うなど予防に取り組んだ。

(2) 保護者への保健指導に関する協力

絵本の貸し出し時間を利用し、各組ごとに保護者に対して講話をし、むし歯予防に対する知識を高めた。また、夏季には、熱中症予防対策やその対応について話をした。伝染性の病気が流行しやすい時期などはその予防について情報を提供し、理解を求めた。また、毎月「ほけんだより」を配付して、家庭での指導に役立てるよう協力を求めてきた。

(3) 園の環境衛生

学校薬剤師による定期的な検査により、細菌・水質等園内の環境安全管理に努めている。また、砂場や遊具など園児が直接接触れるものについては、消毒をするなどの配慮をしている。

【分析結果と根拠理由】

年度当初に昨年度の反省をもとに保健室の指導計画を立て、健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている。ただ、緊急を要する対応の必要な場合には、状況に応じて計画を改定していくことが大切であるとする。

資料2-① 保健室10月の指導計画

保健室10月の指導計画

【幼児の姿】

○登園時
 ・「今日は暑いね。」「今日はちょっと涼しいね。」と、気温の変化を肌で感じている様子で、服装を半袖にしたり、長袖にしたりと調節している。
 ・気温の変化が大きいことから、風邪をひいて鼻水が出たり、咳がでたりする幼児が増えてくる。また、発熱や喘息の発作のため、欠席する幼児もいる。

○活動時
 ・汗をかいたり、砂遊びや泥だご遊びで衣服が濡れたときなどは自分で着替えようとしている。
 ・運動会に向けて、ダンスやかけっこ、一輪車の練習など、思い切り体を動かして遊んでいる。
 ・遠足やピクニック、芋掘りなどの園外保育で、自然の中で体を十分に動かし、ドングリや虫などを採って楽しそうに遊ぶことができる。

・インフルエンザの予防をしようとする。
 ・気温や自分の体の調子にあわせて衣服の調節をしようとする。
 ・目を大切にする。
 ・戸外で思い切り体を動かして遊ぶ。

指導内容	指導の要点と環境の構成の留意点
○インフルエンザの予防をする。 ・手洗い・うがいの大切さを知り実行できるようにする。	○インフルエンザの予防には、うがい・手洗いが大切であることを知らせ、すすんで実行できるようにさせる。 ・登園時とおやつの前や外から帰った後は、速乾性手指消毒剤をつかって手指を消毒するよう声をかける。
○汗の始末や着替えをする。 ・下着着用の大切さを知る。 ・濡れたり汗をかいたりすると、自分で気が付いて着替える。 ・汗をかいたら拭く。	○汗の不始末が病気になることを知らせ、タオルで汗を拭いたり、清潔な下着に着替えることを促す。 ・水遊び等で衣服が濡れた時、着替えをすることにより、気持ちが良くなることに気づいていけるようにする。
○暑くなったら脱ぐ、寒くなったら着るなど、活動内容に合わせて衣服の調節をしようとする。	○園庭や屋上で遊んで暑くなったとき、1枚上着を脱ぐことで快適に過ごせることや、逆に、「寒い！」と訴えて入室した幼児に対しては、1枚上着を着せ、温かくなることを実感させる。
○けがをしたときや、体調の悪い時は、早めに保健室に来る。 ・擦り傷をした時は水で洗ってから保健室に来る。 ・気分が悪くなった時、無理をせずに休憩をする。	○運動会の練習などで、転んで擦りむいた時などは、すぐに水で洗って、土を洗い流すようにさせ、細菌が繁殖しないように気をつける。熱中症気味の幼児に対しては、涼しい部屋でわきの下や首を冷やすなどの処置をし、安静にさせる。
○目を大切にする。 ・視力・聴力検査を実施する。 (年中児)	○悪い姿勢で本を読んだり、暗い部屋でゲームを続けることは目に良くないことを知らせたり、目に良い食べ物を紹介し、生活に取り入れることができるようにする。
(保護者への対応) ・保護者との連携を図り、就学時健康診断について知らせる。 ・健康相談を実施する。	*年長児は就学時の健康診断を指定された小学校で受診しなければならないことを保護者に伝え、子ども達の健康状態をチェックすると共に、基本的な生活習慣を見直す良い機会とする。また、健康相談の機会を設け、保護者の悩みや相談に応じる。

別添資料 2-①
 ほけんだより 10月号

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

指導計画に基づいて保健指導を実施し、職員会において毎月の指導計画を見直し、幼児や園の実態に応じて改定している。

【改善を要する点】

幼児や保護者に対する毎月の保健指導に関し、発信する機会を増やし、保健室にての健康相談の在り方など、もう少し改善の必要があると思われる。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 達成されている 」と判断する。

評価項目3 安全管理

(1) 観点ごとの分析

観点3 安全管理計画（危機管理マニュアル）の見直し・活用の状況

【観点到係る状況】

「平成24年度安全管理計画－危機管理マニュアル－」（別添資料3－①）を昨年度の反省にたち見直した上で作成し、それに基づき計画的に安全管理を実施している。また、毎月20日の学校安全の日には、教職員が2人組で園内の安全点検を実施し、危険箇所などは速やかに修理・修繕をするなど、対応をしている。また、6月には教職員が附属小学校の教職員とともに救急法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得、実技講習を行っている。

資料3－① 防災・避難訓練の実施

① 防災訓練（地震）計画

- ・ねらい ・実際に地震が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成24年5月14日（月） 9：45～10：00

② 避難訓練（不審者対応）計画

- ・ねらい ・実際に保育中不審者が侵入してきた場合、保育者の指示に従って速やかに行動できるよう、安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・期 日 平成24年6月4日（月）10：50～11：05
- ・状況設定 幼稚園の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定
不審者が幼小連携畑から幼稚園敷地内に侵入。

③ 防災訓練（地震・火災）計画

- ・ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成24年9月3日（月） 9：40～9：55
緊急地震速報を実際に流して訓練を行った。

④ 幼小合同避難訓練（地震・津波）計画

- ・ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成24年10月16日（火） 10：39～11：00

⑤ 緊急地震速報受信訓練

- ・期 日 平成24年12月3日（月）

⑥ 防災訓練（火災・地震）計画

- ・ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成25年1月10日（木） 9：40～10：25

【分析結果と根拠理由】

危機管理マニュアルについて、年度当初に職員会で周知しているので、避難訓練の際さらに詳しく確認するよう努めている。

別添資料 3-① 平成24年度安全管理計画－危機管理マニュアルー

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより、事故の防止に努めるとともに、幼児に対して安全な避難の仕方を身に付けさせたり、生命や身体を守ることの大切さを知らせることができるようにしている。特に本年度は、様々な場面での訓練を実施し、自分で判断しなければならない状況を想定しての訓練を実施した。そして、地震の避難訓練時には、「緊急地震速報」を実際に流して、震度4以上の地震が起きたときを想定して実施した。また、毎年、教職員が救急法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得る実技講習を実施することで、安全対応の能力の向上に役立っている。昨年度の修了生の記念品として、全園児用の防災頭巾をいただいたので、避難訓練の際には幼児が着用して、より安全に避難できるように練習している。また、大学より防災用備蓄品を購入してもらい、もしもの場合に備えた飲料・食料・衛生用品の準備がほぼ整った。

【改善を要する点】

管理職や養護教諭が不在時の対応や、地震・津波・火災など様々な場面を想定した避難の仕方など、より多くの訓練を新たに検討する必要があると思われる。また、避難方法が一目でわかる一枚もののマニュアルを作成中である。幼稚園の避難場所は小学校に想定されているので、さまざまな非常用の備品や備蓄などの保管場所の検討が必要である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

評価項目4 組織運営

(1) 観点ごとの分析

観点4 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

【観点到る状況】

本園は、研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制を組織している。3主任

を責任者として配置して、それを園長・教頭が統括するという園務分掌を定めている。昨年度より、県との人事交流による園長が配置され、合わせて部内教頭から専任教頭となったので、今年度は、園務分掌の見直しを図り、園務の効率化から教頭が教務主任を兼任することとした。

昨年度は、週30時間の非常勤講師1名と週15時間の非常勤講師2名が配置されていたが、週15時間では園児への対応が十分できないということで、30時間の勤務時間を優先させ、週30時間の非常勤講師が2名配置されることとなり、保育の充実に努めることができた。人員が1名減となったことについては、教頭が保育の支援にあたり対応した。

年度当初に教員の資質・能力・適性に応じて各担当を配置し、人的教育環境としての充実を考慮しながら、互いに協力して園務の能率化・省力化を図れるよう配慮し、個々の教職員が、「自分は園の一員である」という自覚をもち、主体的に園経営に参加できるように努めた。

園運営に関する事項については、毎月の定例職員会議で、担当責任者が議題や報告にあげ、全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応している。また、その他においても必要に応じ、協議する機会をとっている。

資料4-① 平成24年度第1回職員会議題

平成24年度 第1回 職員 会議		鳴門教育大学附属幼稚園
と き	平成24年4月2日(月)	10:00～
と ころ	附属幼稚園多目的室	
議 事	園 長あいさつ	
	転入者あいさつ	
1 協議事項		(担任者)
(1) 平成24年度人事異動について	資料1	(園 長)
(2) 平成24年度 教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について	資料1	(園 長)
(3) 鳴門教育大学附属幼稚園園則・同大学中期計画・就業規則等について	資料2	(園 長)
(4) 平成24年度 幼稚園要覧について	資料3	(園 長)
(5) 平成24年度 職員の勤務について	資料4	(園 長)
(6) 平成24年度 園務分掌について	資料5	(園 長)
(7) 平成24年度 年間行事計画について	資料6	(教 頭)
(8) 平成24年度 学年始休業中の計画表	資料7	(教 頭)
(9) 4月の行事予定について	資料8	(教 頭)
(10) 新学期諸準備について	資料9	(教 頭)
(11) 始業式について	資料10	(教 頭)
(12) 新入園児用品渡しについて	資料11	(杉 山)
(13) 附属幼稚園職員連絡網・教職員名簿について	資料12	(教 頭)
(14) 入園式について	資料13	(教 頭)
(15) 芙蓉会規程について	資料14	(多 田)
(16) みどり会事業計画・奨学寄付金等について	資料15	(教 頭)
(17) 園児緊急連絡網等について		(教 頭)
(18) 変形時間労働制年間カレンダーについて	資料16	(多 田)
2 連絡事項		
(1) 文書整理・情報管理等について		(園 長)
(2) 経費節減について		(園 長)
(3) 「芙蓉の会」について	資料17	(教 頭)

3 その他

(1)労働環境協議会役員改選について

(園長)

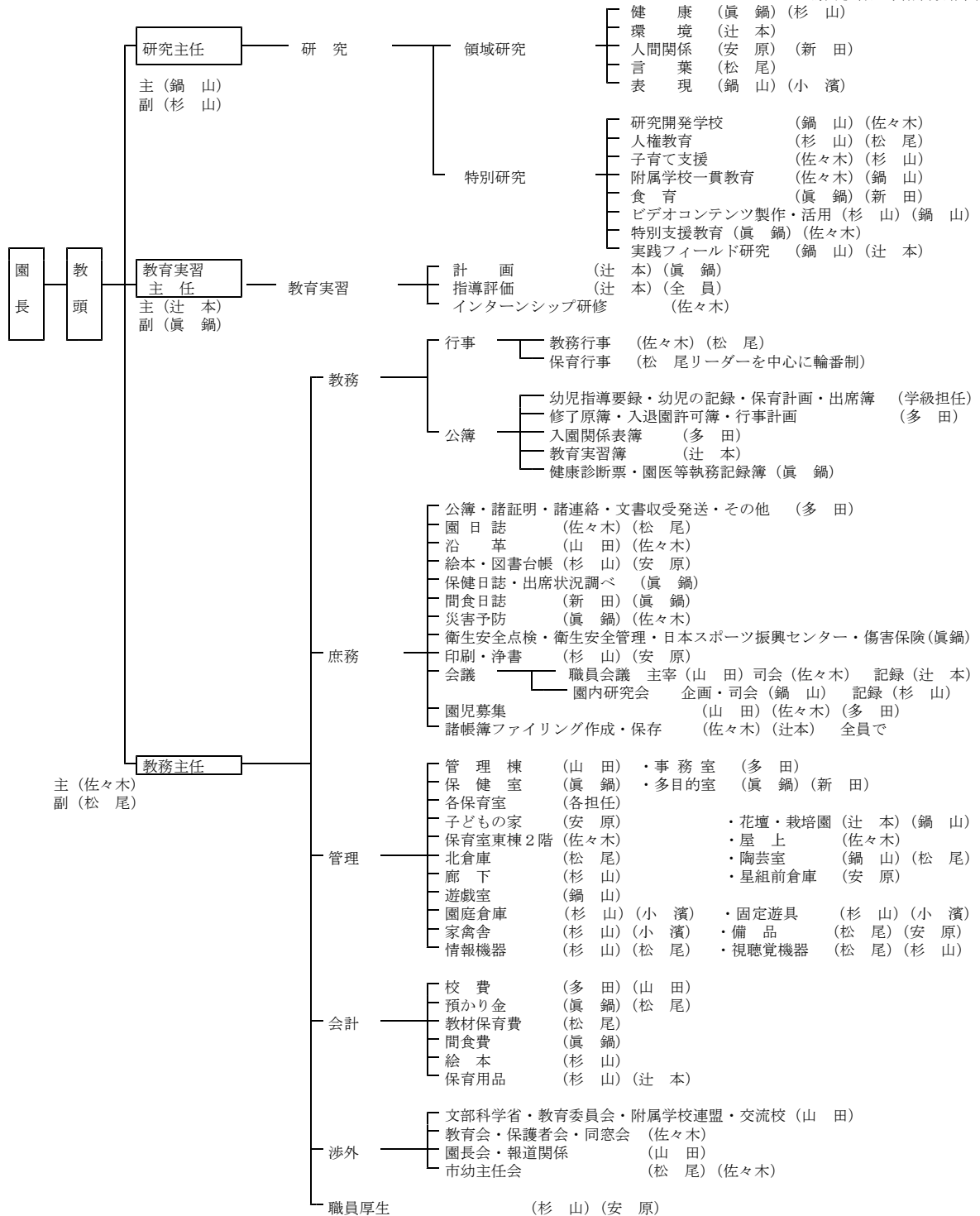
(2)ハラスメント相談委員改選について

(園長)

資料4-② 平成24年度園務分掌一覧表

平成24年度 園務分掌

鳴門教育大学附属幼稚園



【分析結果と根拠理由】

上記資料のような組織で園務を分掌し、幼稚園運営に行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担しているため、個々への負担が大きいにもかかわらず、各々が責任をもって園運営にあたっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

園務分掌は、責任担当者を複数体制で細部にわたって明記し、組織の中での責任の所在や業務内容を明確にしている。また、園運営の全体計画は年度当初に示しており、必要に応じてその都度綿密に計画立案した資料を職員会議に提出して協議・決定し、共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるようにしている。そして、実施後は必ず全員で反省し、次年度に向けての改善策を話し合い、記録に残していくようにしている。

【改善を要する点】

教育・研究・教育実習・子育て支援等、園の業務内容は膨大である。非常勤講師が1名減になったこともあり、本年は肥大化した部分の精選を行い、多少のスリム化は図ったが、依然として定められた勤務時間の範囲内での遂行は難しい現状にある。職員の労働時間の厳守・縮減、業務内容のさらなるスリム化、ノー残業デーの完全実施、休日確保等に依然として課題が残る。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 B 達成されている」と判断する。

評価項目5 研修

(1) 観点ごとの分析

観点5 園内外における実施及び参加状況

【観点到る状況】

①園内研究会・合同研究会

今年度は文部科学省研究開発学校指定の二年目を迎え、「幼小接続の教育課程開発—遊誘財が引き出す科学的思考Ⅱ—」の研究主題のもと研究を進めた。その中で、幼小合同保育授業や幼小接続部会での意見交換などを通して、幼児・児童それぞれに研究課題やねらいに対応した変容が見られ、教師の認識や態度が変容したことも確認された。

また、研究主任の計画のもと、週1回程度の園内研究会、月1～2回程度の合同研究会を他所属(大学・公立幼稚園・小学校等)の教員にも参加を呼びかけて次表のように開催した。今年度の合同研究会は、幼小接続部会と遊誘財部会とに分かれ、実施日を昨年反省をふまえて、1ヶ月にそれぞれ1回を目安に行った。遊誘財部会では特に大学教員の参加が多くあり、共同研究を推進することができている。また、本学幼年発達支援コース田村隆宏教授を中心に日本学術振興会科学研究費補助金の交付を受け、本園の研究を広く情報発信するために発刊した「遊誘財リーフレットNo.1, No.2」は高い評価を受けている。今年度はその成果を引き継ぎ、平成24年度幼児教育研究会に合わせ、「遊誘財リーフレットNo.3」を発刊した。その際、本研究にかかるビデオ撮影・資料収集等のための人員を確保できたことも研究推進につながった。また、幼小接続部会では小学校教員の協力を得て、幼小接続カリキュラ

ム試案実施における、小学校側の成果についても情報収集することができた。これらをふまえ、来年度は「幼小接続の教育課程・指導計画」の作成を進める。

遊誘財部会では、各自が記録を持ち寄り事例研究・保育カンファレンスを行ったり、各担任の研究保育及び保育協議を行ったりする中で、幼児の発達や遊誘財の中身について科学的思考力の育成の視点から分析をすすめた。平成24年度幼児教育研究会においてその成果を発表し好評を得た。

資料 5-① 平成24年度合同研究会開催日

月	日		部会名	内容
5	15日(火)	13:30~15:30	遊誘財	園内研究会
	17日(木)	9:00~12:00 13:30~15:30		研究保育(3年保育4歳児空組:杉山教諭) 保育協議
	24日(木)	15:30~17:00	幼小	合同研究会
6	14日(木)	9:00~12:00 13:30~15:30	遊誘財	研究保育(3年保育3歳児星組:安原教諭) 保育協議
	26日(火)	13:30~15:30		合同研究会
7	17日(火)	13:30~15:30	遊誘財	合同研究会
	26日(木)	15:30~17:00	幼小	合同研究会
8	7日(火)	13:30~15:30	遊誘財	合同研究会
9				
10	16日(火)	13:30~15:30	遊誘財	合同研究会
	25日(木)	15:30~17:00	幼小	合同研究会
	30日(火)	9:00~12:00 13:30~15:30		研究保育(3年保育5歳児川組:鍋山教諭) 保育協議
11	8日(木)	9:00~12:00 13:30~15:30	幼小	研究保育(2年保育5歳児山組:松尾教諭) 保育協議
	15日(木)	15:30~17:00		合同研究会
	20日(火)	13:30~15:30	遊誘財	合同研究会
	22日(木)	9:00~12:00 13:30~15:30		研究保育(2年保育4歳児月組:辻本教諭) 保育協議
12	25日(火)	13:30~15:30	遊誘財	合同研究会
	27日(木)	15:30~17:00	幼小	合同研究会
1	17日(木)	15:30~17:00	幼小	合同研究会
	22日(火)	13:30~15:30	遊誘財	合同研究会
	29日(火)	13:30~15:30		幼児教育研究会の打ち合わせ
2	9日(土)			平成24年度幼児教育研究会

今年度2月9日(土)に附属小学校と同日開催した幼児教育研究会では、407名の参会者を得て、「幼小接続の教育課程開発—遊誘財がひきだす科学的思考Ⅱ—」のテーマで発表を行い、埼玉大学教授の庄司康生先生を講師にお迎えした。

②その他園内研修

保育技術のスキル向上のため、職員や先輩職員を講師として研修を計画し、次のような研修を実施した。

- ・園芸研修
- ・パソコン研修
- ・リズム表現研修
- 等

③園外の研修会等への参加

- ・文科省等主催の研修
幼稚園担当指導主事・担当者会議 1名
幼稚園教育理解推進事業中央協議会 1名
研究開発学校連絡協議会 2名
- ・全附連・四附連・四国附連等の研究会 等
- ・日本保育学会
- ・日本生活科・総合的学習教育学会
- ・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園長会，国・県幼稚園教育課程研究協議会，養護教諭研修会，学校保健安全研究協議会，幼稚園等新規採用教諭研修， 等
- ・全国及び県・市幼稚園教育研究協議会，全幼研，教育会主催の研究会 等
- ・その他セミナー・学会・研究会 等

上記のような数多くの研究会・研修会に園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加し，そこで発表や話題提供なども行っている。

【分析結果と根拠理由】

毎週定例の園内研究会や合同研究会で，今年度の研究テーマに取り組んできた。図や形，言葉や文字に焦点を当てて，幼児期の遊びや生活の中で芽生えた学びが，小学校での自覚的な学びへとどのような道筋をたどって育っていくのかを考察した。それをふまえて，幼小接続の教育課程（試案）を作成した。また，幼児の発達の姿から教育課程の評価をなすべく，「評価要素」の試案を提案した。日々の保育記録や幼児の記録，エピソード記録等を元に保育カンファレンスを実施し協議を重ねたり，今年度も研究保育を実施したことは，教員の指導力向上に直結し，保育の質の向上に寄与したと思われる。

また，園外での研究会・研修会の参加も多岐にわたり，参加職員による報告会をもつなどして職員全体で現在の幼児教育に関する最新の情報を共有している。このことから，教員の資質向上のための園内外での研修は充実していると言える。

別添資料 5-① 研究紀要第46集「幼小接続の教育課程開発－遊誘財がひきだす科学的思考Ⅱ－」（2013.2.9発行）
別添資料 5-② 遊誘財リーフレットNo.3（2013.2.1発行）

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

合同研究会では，本学教員や埼玉大学教授・附属幼稚園長の庄司康生氏などの人的資源を得て，多面的な視点からの保育カンファレンスで協議が深められた。これまで構築してきた実践資料を整理し，実際に保育を行った保育者らによる保育記録の分析がすすめられた。

大学教員から直接専門的な助言や指導を得られることは附属園の利点であり，教員の指導力・資質向上に確実につながっている。また，幼児教育現場の最新の情報を得ることもでき，広い視野で保育の質を考えることができた。

全国附属校園が集う研究会や県主催の研究会等は，他所属の教員との交流や意見交換ができ，自らの実践を見直したり，新たな刺激を受けたりでき，教員の教育研究へ向かう意欲が高まっている。また，研修会参加者は研修報告を行うことで研修成果を全職員に伝達している。担任外教員（非常勤講師）が配置されていることや，派遣経費の一部は保護者からの奨学寄付金から支出しているため，数多くの研修会への派遣が可能となっている。

【改善を要する点】

これまで本学幼年発達支援コースの先生方を中心に研究会を重ねてきたが，本学附属小学

校や自然系コース（数学）の先生方などの参加や意見交換も昨年以上に得られ、より多方面から幼児の発達の専門的理解が進んだ。大学附属の利点を生かし、豊かで質の高い大学の人的・文化的環境を本園の教員の資質向上を図る研修に活用できるよう、多面的な連携研究を積極的に働きかけたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目6 保護者・地域住民との連携

(1) 観点ごとの分析

観点6 保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果

【観点到る状況】

資料6-① オープンスクールでの保護者・参観者を対象とするアンケート集計結果(一部抜粋)

オープンスクールアンケート集計結果			
※実施日	平成24年11月3日(土)		
※回答者	オープンスクール参観者	160名(アンケート回答者100名)	
※アンケート集計結果			
○保育について			
・とてもよい	99名(99%)	・あまりよくない	0名(0%)
・どちらでもない	0名(0%)	・記入なし	1名(1%)
○環境整備について			
・よく整っている	96名(96%)	・もっと整えて欲しい	2名(2%)
・どちらでもない	1名(1%)	・記入なし	1名(1%)

資料6-② 平成24年度参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果

※対象者：一般・教育関係者等来園者98名

平成24年度 附属幼稚園 参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果
*実施日：平成24年4月～平成25年2月 98名

アンケート項目	A	B	C	D	無	計
① 本園の環境は、幼児期にふさわしい教育環境でしょうか。	94 95.92%	4 4.08%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	98 100.00%
② 本園の目指す教育目標や教育方針は、適切でしょうか。	90 91.84%	8 8.16%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	98 100.00%
③ 幼児の基本的な生活習慣自立への援助は適切でしたか。	85 86.74%	9 9.18%	1 1.02%	0 0.00%	3 3.06%	98 100.00%
④ 幼児は、豊かな自然体験や直接体験ができていましたか。	88 89.80%	7 7.14%	0 0.00%	0 0.00%	3 3.06%	98 100.00%
⑤ 幼児は、創造的な表現活動ができていましたか。	91 92.86%	5 5.10%	0 0.00%	0 0.00%	2 2.04%	98 100.00%
⑥ 幼児は、遊びの中で試したり考えたりする学びが得られていましたか。	88 89.80%	7 7.14%	0 0.00%	0 0.00%	3 3.06%	98 100.00%
⑦ 幼児は、友達と一緒に、楽しく充実した園生活ができていましたか。	89 90.82%	8 8.16%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.02%	98 100.00%
⑧ 一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育ができていましたか。	75 76.53%	20 20.41%	0 0.00%	0 0.00%	3 3.06%	98 100.00%
⑨ 施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか。	72 73.47%	20 20.41%	2 2.04%	0 0.00%	4 4.08%	98 100.00%
⑩ 大学との連携による研究成果が、教育実践に生かされてきましたか。	49 50.00%	27 27.55%	0 0.00%	0 0.00%	22 22.45%	98 100.00%
⑪ 保護者も子育てについて学び、共に育ちあう雰囲気が出ていましたか。	80 81.63%	13 13.27%	0 0.00%	0 0.00%	5 5.10%	98 100.00%
⑫ 来客に対する本日の教職員の対応は、適切でしたか。	94 95.92%	4 4.08%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	98 100.00%

【A: そう思う B: だいたいそう思う C: あまり思わない D: そう思わない 無: 無回答】

今年度も次の4種類のアンケートを実施した。

- ① オープンスクール参観者対象アンケート 160名 平成24年11月3日
- ② 参観者及び研修会参加者によるアンケート 98名 平成24年4月～平成25年2月
- ③ 幼児教育研究会参加者対象アンケート 407名 平成25年2月9日
- ④ 年長児保護者対象幼稚園評価アンケート 56名 平成25年1月18日

保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果は、上記のとおりである。保護者対象のアンケートにおける項目はいずれの項目もA評価が大半を占めている。幼稚園の参観者・研修会参加者などのアンケートではA・B評価が多いが、⑩大学との連携による研究成果の生かし方が少し評価が下がっている。

【分析結果と根拠理由】

オープンスクールのアンケートは「保育について」と「環境整備」の2つの観点において「とてもよい」という評価結果となった。ただ、施設の整備や教職員数において、もっと整えてほしいという意見もいただいた。

保護者対象アンケートの集計結果では、本園教育に対する評価はほとんどの項目についてA評価が90%以上という高い水準になっている。昨年度の課題となっていた「保護者が子育てのことで相談しやすい体制になっていたか」という点では、「そう思う」との評価が8%増えた。昨年の反省を受け、大学との連携による研究成果についての項目では、事前に具体的な説明をしていたため高い評価を得ることができた。

参観者（教育関係者・一般参観者）のアンケート結果からも、全体的に高い評価が得られている。大学との連携による研究成果が、どう教育実践に生かされているかの設問は、口頭及びプレゼンの中で具体的場面として説明したのだが、実際には分かりにくかったようで無回答が多くなってしまった。また、わからない点は無記入でよいという事前の説明も影響していると考えられる。

別添資料 1-① 平成24年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料 1-② 平成24年度幼児教育研究会アンケート集計結果
別添資料 1-③ 平成24年度幼稚園評価アンケート集計結果

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

本園の保育内容や教育環境が特に優れているという評価を得られた。保護者からのアンケート結果については、教職員間で考察・検証を行い、後に解説付きの報告書を回答者全員に配付する。内容については、年少・年中児の保護者も含む保護者会で結果について情報提供し、今後の園経営について理解・協力を求めている。また、園内行事において地域の方をゲストティーチャーとして招聘するなど、地域の人材活用に努めている。

【改善を要する点】

参観者をグループ分けすることで、少人数化を図り、本園の教育方針や保育内容等について説明する機会を設け、質疑応答に応じるなど参観者が評価しやすいように配慮した。しかし、評価対象者によって評価項目について検討するなど、評価しやすい条件をさらに整えることや、説明だけでなく資料提示の工夫が必要であると考えられる。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている」と判断する。

評価項目 7 教育環境整備

(1) 観点ごとの分析

観点 7 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

【観点到る状況】

・ 営繕工事の計画・実施の状況

営繕工事要求書を作成し、大学施設課と連絡調整をして、計画的に営繕工事を実施した。平成24年度の主な営繕工事は、中棟・北棟各保育室・資料室（ままごとのへや）の空調設備の新設、絵本の部屋の改修、ボイラー関係の撤去並びにボイラー室の改修、遊戯室前のテラスの張り替えなど、従前から何年間も要求し続けていたものが実現した。また、屋外排水設備改修が実施され、浄化・排水問題も解消されることとなり、玄関まわりも美しく整備された。

資料 7-① 平成 24 年度附属幼稚園営繕工事要求書

要求順位	工事内容	要求理由
1	ボイラー・重油タンクの撤去とボイラー室の改造（ロッカールーム・食品保管所等）	平成23年度に保育室へのエアコン整備が予定されていたが、3月11日発生の東日本大震災の影響を受けて物品の調達が不可能となったため、23年度は見送り、24年度にエアコンの整備予定と説明を受けている。 各保育室に空調機が整備されると、ボイラー及び重油タンクは不要となるので、危険な環境を減らすためにも、即刻撤去してほしい。 現在、男女別のロッカールームはなく水着等の更衣に不便なうえ、平成23年度から男性職員が2名増員（計3名）しており、職場環境の改善のためにも男女別ロッカールームは是非とも必要であるので、撤去後の部屋の改造を願う。 本園は「おやつ部屋」で間食を実施しているが、管理棟のどの部屋も狭いため、菓子や乾物などの食品を保管する場所に苦慮し、現在は保健室の棚等に保管している。衛生的に、また安全に保管できる場所の確保を図りたい。 現在の職員室はきわめて狭く、印刷機・パソコン・書庫等で、休憩もとれないような空間であるので、ボイラーの撤去後は、職員室にある紙類・資料・文房具類等の整理棚が設置できれば、仕事の効率化が図られる。
2	えほんの部屋の床張り替え補強等	平成23年度の回答では△であったが、時期的に無理だと思うので、続いて優先的に要求する。 中棟2階のえほんの部屋は、通常の読書活動はもとより、毎日、学級毎の親子絵本の貸し出しや保護者会活動などで大勢の大人も使用し、園内でも使用頻度が高い部屋である。長年の使用により床のきしみや揺れが年々ひどくなり、危険を感じる。安全面で大変問題があるので、早急に重い書籍に耐えうる頑丈な床の張り替え等による補強工事を願う。 また、部屋の端にボイラーによる暖房器具が設置されたままの状態であるが、エアコンが整備されているので現在は使用していない。限られた空間をより効率的に利用して本棚等を安全に配置するためにも、器具の撤去も併せて実施して欲しい。
3	渡り廊下の屋根の整備（張替）	渡り廊下の上の屋根は老朽化で元の塗装はほとんど落ち、留め金具の錆びや腐食が進んでいる。雨漏り防止と、雨天時の園児の活動の場の確保のため、渡り廊下東側に伸張した屋根に早急に張替を願う。 また、23年度には台風による大雨の影響で溜まった雨水が漏れ、漏電かどうか不明ではあるが、火災警報機が鳴る騒ぎがあった。
4	園舎外壁の補修及び塗装	園舎外壁全体にモルタルの剥がれ落ちや、ひび割れがある。園児の安全確保や美観のためにも補修を願う。特に次の部分がひどい状況である。 ①中棟南西の壁 ②管理棟西ドア横の壁 ③中棟屋上の橋接合部
5	西側フェンス設置	幼稚園西側に10階建ての分譲マンションが建設された。現有の西側フェンスは低くマンションが高いため死角が出来ることになり、外部から容易に侵入されてしまう危険性がある。幼児の安全管理のため、早急に現有のものより高いフェンスの設置を願う。
6	園庭の整備	平成15年度の営繕工事により、正門から玄関までの間はアスファルト舗装やコンクリートブロックをインターロッキングに張り替えているところである。園庭側に溝がある構造になってはいるが、玄関側に雨水や泥水がたまり水はけが良くない状態であるので、補修願いたい。また、玄関から東保育棟にいたる残ったコンクリート面も、美観や園児の安全確保のためにインターロッキング等に張り替えるよう願う。
7	遊戯室南テラスの張り替え	遊戯室横のテラスのひび割れや塗装のはがれ落ちがある。園児の安全確保や美観のためにも補修を願う。
8	屋上に遮光テントに代わるものの設置	北棟屋上は一輪車乗りやこっこ遊びによく活用しているが、陽差しのきつい時に長時間集中して活動すると幼児には体力面・健康面の負担がかかる。最近では、幼児期からの紫外線対策についても細心の注意を払う必要があり、北棟屋上の一部に遮光テントの設置を要求していたが、構造上不可との回答だったため、代替として設置できるものがあれば設置して欲しい。

・ 施設・設備の充実整備の状況

管理棟多目的室（おやつのへや）の液晶モニターを2台交換し、防犯カメラからの映像が明瞭に映るようになった。

ブランコまわりの危険予防柵に安全マットを巻き安全な環境づくりに配慮した。
地震速報装置（緊急災害情報受信端末装置）が緊急時に作動することを訓練で確認した。
東棟2階（絵本の部屋）に書棚を設置し、有効な書籍活用ができるようになった。

・労働環境の充実整備の状況

ファクシミリと大型プリンターを新しい機種に交換し、事務の効率化が図られた。

・今年度新規購入した遊具・用具等の状況

木製円形テーブル・年長組用机・巧技台・養生マット・ジョイントすのこ等

【分析結果と根拠理由】

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では、施設・設備・遊具・用具等の整備は常に意識して実施している。職員の安全に対する意識も高く、幼児が生活しやすいよりよい教育環境作りに対して前向きである。また、点検のシステムは確立され、潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を生活の中で、また、定期的な点検の中で見つけている。

附属学校チームや大学施設課と、常に迅速で緊密な連絡をとりあい、特に故障や破損等については、迅速な対応がなされた。特に今年度は、ボイラー撤去、空調設備、絵本の部屋の改修というかねてよりの要求が実現され、よりよい環境作りがされたことでさらに保育の充実を図ることができると考えている。

本園の環境整備についてのアンケート集計結果は、オープンスクールでは96%が、幼児教育研究会では91.5%がよく整っていると認めている。

参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果（資料7-②）では、「施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか」では、93.9%がA・B評価としている。

資料7-① 平成24年度 施設設備工事等一覧

	事 項
1	花壇設置
2	液晶モニター交換
3	プリンタ1台
4	教材倉庫棚
5	クロス張り替え（管理棟廊下・遊戯室）
6	大型ブロック用台車（6台）
7	床ワックス清掃業務
8	オージオメーター1台
9	巧技台（5台）
10	ボイラー撤去及びボイラー室の改修
11	エアコン設置（4/5歳保育室、ままごとの部屋）
12	前川地区排水整備
13	床の張り替え及び壁の塗り替え、ドアを新品（えほんの部屋）
14	本棚新設（えほんの部屋）
15	保育室用机（年長用）
16	ベランダの床塗装（遊戯室南側）
17	収納棚（ままごとの部屋）
18	防災用備蓄品（非常食・防寒シート・簡易トイレ等）

資料7-②

平成24年度 附属幼稚園 参観者及び研修会参加者によるアンケート集計結果
 *実施日:平成24年4月～平成25年2月 98名

アンケート項目	A	B	C	D	無	計
① 本園の環境は、幼児期にふさわしい教育環境でしょうか。	94 95.92%	4 4.08%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	98 100.00%
② 本園の目指す教育目標や教育方針は、適切でしょうか。	90 91.84%	8 8.16%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	98 100.00%
③ 幼児の基本的な生活習慣自立への援助は適切でしたか。	85 86.74%	9 9.18%	1 1.02%	0 0.00%	3 3.06%	98 100.00%
④ 幼児は、豊かな自然体験や直接体験ができていましたか。	88 89.80%	7 7.14%	0 0.00%	0 0.00%	3 3.06%	98 100.00%
⑤ 幼児は、創造的な表現活動ができていましたか。	91 92.86%	5 5.10%	0 0.00%	0 0.00%	2 2.04%	98 100.00%
⑥ 幼児は、遊びの中で試したり考えたりする学びが得られていましたか。	88 89.80%	7 7.14%	0 0.00%	0 0.00%	3 3.06%	98 100.00%
⑦ 幼児は、友達と一緒に、楽しく充実した園生活ができていましたか。	89 90.82%	8 8.16%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.02%	98 100.00%
⑧ 一人一人の幼児の発達や心情を尊重した保育ができていましたか。	75 76.53%	20 20.41%	0 0.00%	0 0.00%	3 3.06%	98 100.00%
⑨ 施設・設備は、衛生面や安全管理の配慮ができていましたか。	72 73.47%	20 20.41%	2 2.04%	0 0.00%	4 4.08%	98 100.00%
⑩ 大学との連携による研究成果が、教育実践に生かされてきましたか。	49 50.00%	27 27.55%	0 0.00%	0 0.00%	22 22.45%	98 100.00%
⑪ 保護者も子育てについて学び、共に育ちあう雰囲気はできていましたか。	80 81.63%	13 13.27%	0 0.00%	0 0.00%	5 5.10%	98 100.00%
⑫ 来客に対する本日の教職員の対応は、適切でしたか。	94 95.92%	4 4.08%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	98 100.00%

【A: と思う B: だいたいと思う C: あまり思わない D: そう思わない 無: 無回答】

別添資料 1-① 平成24年度 附属幼稚園
 園オープンスクールアンケート集計結果
 別添資料 1-② 平成24年度 附属幼稚園幼児教育研究会アンケート集計結果

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

安全点検によるチェック機能はよく働いており、施設・設備として不備な点はすぐに設置者との連携がとれ、附属学校チーム及び大学施設課の手厚い支援で、教育環境が常に美しく整備されている。

【改善を要する点】

現在の園舎は、昭和44年に建築されたもので、築45年を経っており、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ、配管などの老朽化が目立つので、園舎改修を切望している。

教職員による環境整備は入念に実施できているので、施設・設備面での改善を必要とする。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

評価項目 8 教育実習

(1) 観点ごとの分析

観点 8 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

【観点到係る状況】

今年度の教育実習の実施状況は、次のとおりである。

- ①ふれあい実習 9月10日
学部1年生幼児教育専修5名・長期履修生(大学院)3名
目的：教育実習実践現場の様子を観察することにより、教職及び幼児理解を深める。子どもとのふれあいを通して、体験的に子どもの姿を学びとり子どもの理解を深める。教職への意欲を高めるとともに、教職に向けての自己課題を明確にする。
- ②附属学校園観察実習 6月12日、13日
学部3年生5名・長期履修生(大学院)2名
目的：附属幼稚園での保育参加を通して「保育の成立要因」の明確化を図る。幼児への関わり方を観察・体験したり、実習生の取り組みや附属教員の実習指導の様子を受けとめたりすることにより、教育実習への自己課題の明確化を図る。
- ③附属校園実習・教員インターンシップ オリエンテーション 7月12日
学部3年生5名・長期履修生(大学院)2名・教員インターンシップ1名
- ④附属学校園実習 9月3日～9月28日
学部3年生5名・長期履修生(大学院)2名
目的：学習指導、幼児、生徒指導、学級経営など、教育活動全般にわたっての実習体験を重ねることにより、「教師として具有すべき指導方法」を実践的に学ぶ。特に保育・授業における基本的指導技術を習得することが主たる目的である。計画表は<資料8-①>
- ⑤教員インターンシップ 9月3日～9月14日
学部4年生中学校教育専修美術科教育コース1名
目的：これまでの実地教育の成果を生かしつつ実習に取り組み、教育実践力の向上を図る。教職を目指す者として自覚を強めるとともに新たな自己課題の明確化を図る

保育実習について

毎日、担任指導教員に教育実習録・保育案を提出し、週に1度、観察記録・週の指導記録・幼児の記録を提出する。当初は、指導計画立案に長時間を要していたが、少しずつ観点を押さえて整合性のある保育案を作成できるようになってきた。保育後は、その日の幼児の生活ぶりを記録し、保育を振り返るミーティングを深めた。遊びの中の教育的価値・活動内容や経過・先の発展見通し・環境構成・時間の配分・幼児の発達の実情・内面理解・友達関係・教育課程や月別指導計画との関連・ねらいや内容の妥当性など、自らの言動を振り返りながら、子どもの姿を通して、保育の基本姿勢や考え方を学んでいった。

また、週ごとに<資料8-②>の自己評価を実施し、自分の課題が明確になっていった。

資料8-① 附属学校園実習 実地教育計画表

平成24年度 鳴門教育大学附属幼稚園 実地教育計画表

(○全体 ●学級・学年)

週	月/日	曜	行 事	実習要項	指 導 要 項	備 考
1	9月3日	月	教育実習開始 対面式 避難訓練 みどり会理事会	観察参加	○教育実習の意義（園長） ●9月の指導計画について ●第1週保育内容について ●記録のとり方について	諸書類提出 記念写真撮影
	9月4日	火	身体測定 (3歳児)	保育(一部)	○本園の教育について（園長） ○学級経営・学級事務（佐々木） ●領域研究・環境	入園希望者参観
	9月5日	水	午後保育日	保育(一部)	○本園の教育課程・指導計画・日案, 幼児理解と幼児指導について（佐々木） ●領域研究・言葉	
	9月6日	木	研究保育	観察参加	○保育説明・保育協議（各担任） ●領域研究・人間関係	
	9月7日	金	視力検査（5歳児）	保育(一部)	○教育講演会参加 ●第2週保育内容について	教育講演会
	9月8日	土				
	9月9日	日	〈救急の日〉			
2	9月10日	月	ふれあい実習(1年) 午後保育日	保育(一日)	○家庭との連携, 保健・安全指導について（佐々木） ●領域研究・健康	第1週記録 第2週計画提出
	9月11日	火		保育(一日)	○本園の人権教育について（佐々木）	
	9月12日	水	午後保育日 園外保育（午前中）	保育(一日)	○行事教育-運動会・園外保育について（佐々木） ●領域研究・表現	
	9月13日	木		保育(一日)	●4年生評価保育案作成	入園希望者参観
	9月14日	金	教員インターシップ 終了 午後保育日	保育(一日)	●4年生評価保育反省会 ○研究保育者決定・評価保育日程について（辻本） ●第3週保育内容について	
	9月15日	土				
	9月16日	日				
3	9月17日	月	〈敬老の日〉			
	9月18日	火	ふれあい実習予備 日	保育(一日)		第2週記録 第3週計画提出
	9月19日	水	午後保育日	保育(一日)	○研究保育案作成	入園希望者参観
	9月20日	木	学校安全の日		○研究保育案作成（印刷・環境準備）	
	9月21日	金	実習生研究保育	研究保育	○研究保育反省会 ●第4週保育内容, 評価保育について	
	9月22日	土	〈			
	9月23日	日	〈秋分の日〉			
4	9月24日	月	午後保育日	保育(一日)	●評価保育①指導案作成	第3週記録 第4週計画提出
	9月25日	火		評価保育① (一日)	●評価保育①反省会 ●評価保育②指導案作成	

9月26日	水	午後保育日	評価保育② (一日)	●評価保育②反省会	入園希望者参観
9月27日	木		保育(一日)		
9月28日	金	教育実習終了	保育(一部)	○教育実習反省会	
10月6日	土	運動会			
10月7日	日	運動会予備日			

資料8-② 自己評価観点表

評価観点	第一週	第二週
幼児理解	<ul style="list-style-type: none"> 観察参加の中で幼児の行動観察記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。 自分のかかわった幼児を中心に、遊びの様子やエピソードを記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の行動観察記録やエピソード記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。 幼児の行為(現象)について記録し、その意味について考察する。 一人一人の幼児の発達の状況と指導の重点について記述し、幼児理解を進める。
環境の構成と指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員の保育を観察し、環境の構成や具体的な指導について記録し、基本的な保育の構えと意味について理解する。 幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。 教育課程と指導計画について理解を進める。 一部保育場面についての指導案を作成し、指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程と指導計画の関連について考察しながら、一部保育場面及び一日の保育についての指導案を作成し、指導を行う。 幼児の実態(興味や関心、発達の状況など)について研究しながら、実際に環境の構成を行い、その結果について考察する。 幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。 園外保育の下見、指導案の作成、指導の実際などを通して地域環境を取り込んだ保育実践の展開や留意事項、危機管理について理解する。
幼児とのかかわり (指導の実際)	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員の保育の実際について観察し、保育後のカンファレンスに参加する。 自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の実態(興味や関心、発達の状況など)についての読み取りと、実際の指導、幼児の反応や活動を相互に関係づけながら省察する。 自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。
保育評価と省察	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員の保育の記録をとり、教師の意図や幼児との応答の様子、幼児の活動の変化について考察する。 幼児の記録(行動観察記録・エピソード記録)について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の保育の記録をとり、環境の構成、教師の意図、幼児との応答の様子、幼児の活動の変化についてディスカッションし考察する。 幼児の記録(行動観察記録・エピソード記録)について考察する。
学級経営と学級事務の実際	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員より学級の実態や学級経営方針について説明を受け、それについてのディスカッションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員と共に学級事務にかかわりながら実務を体験する。 保健・安全指導について養護教諭並び

	<ul style="list-style-type: none"> ・学級事務についての考え方について説明を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・に担任から講話を受ける。 ・同和教育・人権教育について講話を受け、ディスカッションの中で課題を意識化させる。 ・家庭との連携について講話を受け、幼児を取り巻く諸環境や保育実践の背景について理解する。
自己評価観点の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題をもって保育観察及び幼児の観察ができたか。 ・保育観察、講話、ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲、態度であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題をもって保育ができたか。 ・一人一人の幼児についてどのように理解が進んだか。 ・保育観察、講話、ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲、態度であったか。

【分析結果と根拠理由】

今年度も、幼稚園における幼児との直接的なかかわりの過程をとおして、指導教員のもと、教職の体験を積み、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。実習生は、教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けようと実習に取り組み、子どもと共に生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図れた実習となった。

教育実習とは別に、幼年発達支援コースとの自然プロジェクト（フレンドシップ事業による）や「夏期保育」のボランティアとして学生が保育参加する中で、より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ、実習にもよい影響が感じられる。

保護者アンケートの自由記述に次のような記述があり、保護者からも多くの支持を得た実習であった。

資料 1－③ 平成24年度幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋）

教育実習生のお子様へのかかわりで気付いたことをあげてください

「一人ひとりの子どもと真剣に向かい合ってくれたことに感謝している」「子どもに近い目線がかかわってくれ、やさしく見守ってくれた。節度をもって子どもに接し、言葉遣いも適切だった」「初々しさと一生懸命な姿に好感がもてた」「子どもたちと一緒に遊んだり、熱心に子どもの話を聞いてくれたりして短期間ながら積極的にかかわっていただいた」などの記述があった。

別添資料 1－③ 平成24年度幼稚園評価アンケート結果報告書

（2）優れた点・改善を要する点

【優れた点】

- ・ふれあい実習、観察実習の実施、ボランティアでの保育参加により教育実習に参加する前に、実際に園や子どもの様子を見ることで教育実習のスタートをスムーズにできている。受け入れる本園としても教育実習生一人一人の良さ等を事前に把握できることにより、実習期間中の指導・対応もしやすい。
- ・教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身につけようと実習に取り組み、子どもと共に生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図られ、多く

の成果が得られた実習となった。

- ・教育実習生への全体指導の項目数が昨年度までは多かったが今年度は計画を見直し、指導項目をまとめる等により項目数を減らした。(7-① 実地教育計画表参照)その結果、1日の保育を振り返り反省する時間や、翌日以降の保育計画立案、教材研究などをする時間が十分に確保できた。
- ・大学の教員及び附属校園長で構成されている実地教育専門部会にて、充実した教育実習の在り方について話し合い、大学と附属校園との連携を図っている。

【改善を要する点】

- ・教育実習中の本園教員の勤務時間は、変形労働時間制で1日10時間勤務となっているが、それ以上の長時間勤務となっているのが現状である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目9 センターの役割

(1) 観点ごとの分析

観点9 幼児教育関係者への研修支援、教員派遣等の状況

【観点到係る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。

今年度の具体的な研修支援、教員派遣、研修会会場提供としては、次のとおりである。

- ・全幼研徳島支部の事務局を本園に置き支部の研修を企画運営(学習会、総会、理事会)
- ・教育講演会の開催
- ・教員の県内外研修会への講演講師の派遣(京都府教育委員会及び舞鶴市・岡山県教育委員会・大阪府高槻市・滋賀県守山市・奈良市・兵庫県伊丹市及び姫路市、赤穂市・香川県三豊市・徳島県徳島市・阿南市・吉野川市・美馬郡・美馬市など29件。専任教頭制になったため講演等の研修支援が行いやすくなった。)
- ・合同研究会の開催
- ・平成24年度幼児教育研究会の開催(407名の参加)
- ・徳島県教育委員会主催の研修会への講師派遣(教頭3件・辻本教諭1件・鍋山教諭1件)
- ・県新規採用研修・新任園長研修会の会場の提供・講師派遣
- ・平成24年度幼稚園新規採用教諭研修・保育技術協議会等、県教委主催の研修会への講師派遣
- ・文部科学省の幼稚園教育指導資料作成協力者としての協力(教頭)

【分析結果と根拠理由】

以上のとおり、幼児教育関係者への研修支援および教員の派遣はできている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

県内外より講演依頼があり、幼稚園教育についてや教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしている。

【改善を要する点】

講師として派遣している職員が勤務時間中に研修会などに出席しているため、その分の仕事を消化するには超過勤務とならざるを得ない状況である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

Ⅲ 自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	資料番号	資 料 名
1	1-①	平成24年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	1-②	平成24年度幼児教育研究会アンケート集計結果
	1-③	平成24年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	5-①	研究紀要第46集
2	2-①	ほけんだより 10月号 (2012.10.2 発行)
3	3-①	平成24年度安全管理計画－危機管理マニュアル－
5	5-①	研究紀要第46集「幼小接続の教育課程開発－遊誘財が引き出す科学的思考－」(2013.2.9発行)
	5-②	遊誘財リーフレットNo.3 (2013.2.1発行)
6	1-①	平成24年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	1-②	平成24年度幼児教育研究会アンケート集計結果
	1-③	平成24年度幼稚園評価アンケート結果報告書
7	1-③	平成24年度幼稚園評価アンケート結果報告書